



「博覧会、博物館から日本を考える」

【 国際研究教育機構 教授 伊藤真実子 】

研究者紹介

近代日本における万国博覧会、および国内で開催された博覧会を主に研究。また、近年は、博物館、および江戸時代のコレクター、蒐集文化も研究し、蒐集文化、コレクションの日欧比較などもおこなっている。

【キーワード：日本近代史、万国博覧会、博覧会、博物館、コレクション】

本研究の目的・内容

近代日本において、正式に万国博覧会に参加したのは、1873年ウィーン万国博覧会からである。その参加経緯は、国内での博覧会（内国勸業博覧会）や、博物館の建設へと生かされた。また、その後も、世界各地で開催された万国博覧会、国際博覧会に参加を重ね、1940年には、万国博覧会の日本での開催を計画する。（戦争により中止）

実際に万国博覧会が日本で開催されたのは、1970年大阪万国博覧会が最初であり、その後も、2005年愛知万国博覧会を開催した。21世紀に入っても、万国博覧会に積極的に関与しているが、そこでイメージとして日本側から出していく日本像というのは、実際の日本と、どのような相違があるのでしょうか。また、過去に参加した万国博覧会での日本像からの変遷をさぐるとともに、世界に対して日本をどのように打ち出していこうとしているのか、博覧会および博物館から考える。

本研究の新規性・優位性、成果の応用・活用

- ・世界各地で開かれた万国博覧会での日本展示から、その当時の日本を、国内状況のみならず、国際関係から読み解く。
- ・世界各地の博物館における日本展示資料について、そこに展示されるまでの蒐集経緯をたどる。すなわち、文物から当時の社会状況、国際関係、流通、消費などを読み解く。

主な研究業績

【著書】『明治日本と万国博覧会』（吉川弘文館、2008年）

『世界の蒐集—アジアをめぐる博物館、博覧会、海外旅行—』（山川出版社、2014年）（共編著）

【論文】「博覧会と植民地」『きのうの日本—近代社会と忘却された未来—』（有志舎、2012年）所収

「航西日乗（成島柳北）」『日記に読む近代日本1（幕末・明治前期）』（吉川弘文館、2012年）所収

応対できる研究・企業等への希望

1. 共同研究
2. 受託研究/評価試験
3. 学術指導/コンサルティング
4. 講演/出張講義
5. 寄付金受入
6. 報道等の取材/出演
7. その他（ ）

研究者より：万国博覧会、博覧会、博物館、蒐集文化、コレクション文化に関する共同研究

【お問い合わせ】

学習院大学 研究支援センター

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1

TEL: 03-5992-1228 Mail: Ken9-off@gakushuin.ac.jp

URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/research/index.html>



学習院大学 広報大使

さくまサン

©'12-'18 GAKUSHUIN